

自己評価・施設関係者評価 結果公表シート

認定こども園 おっこう山

1. 教育・保育 目標

- ・教育、保育の質の向上、こども一人一人を大切にされた保育内容の充実を全職員で共通理解を深めながら運営を行う。
- ・様々な視点から、こどもを中心に考える教育、保育の充実とは何なのかを具体的な課題としてあげ、計画的にすすめて実行していく。
- ・乳幼児と老人の共生を実践する中で、社会状況に応じた関わりを重ね、共に育ちあえる関係性をより構築できるように努め、認定こども園おっこう山独自の幼老共生の確立を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

- ・コロナ禍が明けたことによる「幼老共生」の実践（特に「なごみタイム」の実践）
- ・様々な視点から見る保育環境の整備
- ・豊かな自然環境を生かした保育

3. 自己評価の実施内容と評価項目の達成及び取組状況

自己評価実施時期	令和5年12月5日（火） 14:00～15:30
参加者	【おっこう山】 園長、副園長、主幹、クラス担任職員 【グループホームおっこう山】 施設長

評価項目	評価・結果	理由
(1) 幼老共生	C	コロナ禍明けで実践内容が少ない
(2) 保育環境の整備	B	職員同士の話し合いでより良い環境づくりに努めているが、別の視点からの意見も必要
(3) 自然環境を生かした保育	B	田植えや芋掘りなどの自然体験やコロンの丘

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価・結果	理由
B	・幼老共生に関して コロナ禍で交流が難しかったこともあり、まだ模索しながらの実践であるため様々な視点から意見やヒントが欲しい。 ・保育環境の整備 ワンフロアの強みを生かした、各年齢発達に応じた環境の工夫について検討したい ・自然環境を生かした保育 田植えや芋掘りなどの豊かな自然体験や近隣の散策などを実践しているがより多くの方の意見を聞きたい。

※「3」「4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 公開保育の実施内容

実施日程	令和5年12月7日(木) 9:30~14:30
参加者	【おっこう山】 園長、副園長、主幹保育教諭、保育教諭(10名) 【グループホームおっこう山】 施設長 【外部】 統括園長、鈴蘭台北町(1名)、桜の宮こども園(2名) 小規模すずきた(1名)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・みてみて保育 ・園の中央デッキにて「なごみタイム」 ・グループホームからみたおっこう山の見学 ・ディスカッション

6. 施設関係者評価

桜の宮こども園 参加者	・グループホームからこども園を見ることで、利用者さんの目線を感じることができた。視点を変えて考えることも大切。
鈴蘭台北町こども園 参加者	・自然と異年齢と関わりがある姿は良かった。グループホームの利用者さんともスムーズに触れ合うことができていた。
統括園長	<ul style="list-style-type: none"> ・四季のおっこう山の自然を感じる保育が大切。 ・保育者がアプローチすることの大切さ。 ・誰とでも出会えるワンフロアであることで、社会の縮図を感じることができる。 ・待たせる保育をしていない → 流れる保育(信頼関係と見守りが成立しているからこそ) ・見通しが持ちにくい子どもでも、流れの中で子ども同士が成長していくこともある。

7. 今後取り組むべき課題

課題	取組み方法
幼老共生	幼老共生を法人内で共有する場となり、改めて子どもとグループホーム利用者の関わりがお互いに良い刺激を与えあっていることを感じた。 日頃から少しでも共生できる環境、場所を提供したい。
保育環境・保育内容	待たせる保育ではなく、信頼関係と見守りの中で子どもがのびのびと過ごす雰囲気大切に、温かさ=安心という物的、人的環境を今後も進める。
自然環境を生かした保育	豊かな自然を存分に感じられる教育、保育を実践ができていることを再確認できた。今後もより一層、園を取り巻く豊かな環境を活かす実践内容の充実を図っていく。